

「里親制度・特別養子縁組制度」議事要旨

(開催要領)

1. 開催日時：令和3年1月23日(土)13:00~15:10
2. 場 所：奈良ロイヤルホテル
3. 登壇者：
厚生労働省子ども家庭局長 渡辺由美子
女優 瀬奈じゅん
ダンサー 千田真司
日本女子大学教授 林浩康
社会福祉法人二葉保育園 二葉乳児院 二葉・子どもと里親サポートステーション 長田
淳子
里親 宮坂康子
特定非営利活動法人みぎわ理事長 松原宏樹
養親 岡田千恵子

(プログラム)

1. 開会挨拶及び施策説明 「里親制度・特別養子縁組制度」について 渡辺由美子
2. スペシャルトーク「特別養子縁組制度」
パネリスト 瀬奈じゅん／千田真司
ファシリテーター 林浩康
3. パネルディスカッション 「里親制度・特別養子縁組制度」
パネリスト
〈里親制度について〉 長田淳子／宮坂康子
〈特別養子縁組制度について〉 松原宏樹／岡田千恵子
ファシリテーター 林浩康
4. 閉会挨拶 渡辺由美子

* 敬称略・順不同

1. 開会挨拶及び施策説明

今、我が国では様々な事情で実の親と暮らせない子どもが約4万5千人いますが、大半が施設で暮らし、家庭的な環境で暮らせるのは2割弱とまだまだ少ない状況です。家庭的な養育環境の柱が里親制度や特別養子縁組制度です。里親は原則18歳まで育てるもので、国の経済的サポートもあります。特別養子縁組は養親と実の親子になります。詳しくは特設サイト(里親制度：『広げよう「里親」の輪』、特別養子縁組制度『特別養子縁組 子供を育て

たいと願う人へ』)をご覧ください。

2. スペシャルトーク

①林

特別養子縁組制度でお子様を迎えた瀬奈さん、千田さん夫妻に話を伺います。

②瀬奈

不妊治療は私には合わず、体力的にも精神的にもボロボロになりました。それでも子どもを育て、家族になりたいと感じ、チャイルドマインダーの資格を持つ主人からの話を機に多くの子ども達が施設で暮らしている現実を知り、養子を迎えようと思いました。制度を知るには、不妊治療を始める最初の段階で、里親や特別養子縁組の制度もあると医師に提示してもらうことが最も良いタイミングだと思います。

晴れて戸籍上の親子になった時はとても嬉しかったです。生後 5 日で息子を迎えに行きましたが、初めて「お母さん」と言われた時、すごく実感が湧きました。日々成長する瞬間に立ち会えた時、本当に喜びを感じます。養子縁組について正しい知識を知ることが必要で、知識を得ることで勇気も湧き、愛にたどり着けると信じています。

③千田

不妊治療で精神的に追い詰められていく妻を救うきっかけになるんじゃないかと思い、特別養子縁組の話をしました。最初に民間斡旋団体のワークショップを受けた時、「子どものための制度です」と説明されたのですが、自分達が親になりたい、子どもを育てたいという思いがエゴにならないのか、すごく葛藤しました。決意してからは、すごく期待に溢れた幸せな時間を過ごしました。

家族というものは、一方的に親が子どもを育てるのではなく、子どもからたくさんのものを貰って親も成長し、頑張ることができると思います。家族に血の繋がりは必要なく、分かり合い、助け合えば家族なのかな、と思っています。

④林

子どもを産まないがゆえに、夫婦が同じような立場で子どもに対する思いを育んでいけるのは特別養子縁組制度の強みかと思っています。不妊治療に限定せず、実子がいても養子をお願い方や里親委託を受ける方など、多様な家族との出会いを身近に感じられる制度になることが、子どもや養親、生みの親にとって良いことだと感じました。

3. パネルディスカッション

〈里親制度について〉

① 宮坂

夫と小学1年生の里子の男の子と3人で暮らして5年目です。血の繋がりにこだわらなければ子どもを育てる望みがかなえられるので、不妊治療をやめて里親になりました。子どもが欲しいと長く悩み苦しんだので、息子、実親さんに感謝の気持ちでいっぱいです。

悩み事は、里親や養育家庭の情報が少なく、保育園の入園手続きをはじめ様々な手続きに不便さを感じています。また子どものかんしゃくが里子特有の試し行動なのか、成長の過程なのか分からないこともあり、相談機関があればと思います。

② 長田

私達は里親家庭や子どもの支援をしています。子どもやご家族のニーズを聞いて、児童相談所などが里親さんを探すマッチングをします。定期的に面会する交流は、子ども達にも大切な時間です。子ども達は0歳から18歳までと幅広く、ニーズや対応の仕方も様々です。

まだまだ支援の輪が広がらず、制度を知っている人が少ないのが現状なので、広報活動に力を入れ、地域の方々が里親さん達の応援団になるような工夫をしたいです。

〈特別養子縁組制度について〉

③ 岡田

1年前に委託されたダウン症の娘がおり、先週、養子縁組が成立したばかりです。私自身が看護師として児童発達支援の仕事をしていましたし、養子縁組の子どもに病気の有無などの条件はないと、夫婦で決めました。

障害のあるこの子が何歳になるまで親としてサポートしながら生き続けられるのか考えた時、私達がいなくなってもきちんと生きていけるネットワークやサポートをしてもらえ、環境、社会を整えておくことが私達の役割だと思います。

④ 松原

望んで妊娠したが子どもに障害や病気があると分かった段階で望まない妊娠になるという方々に寄り添い、その赤ちゃんを温かな家庭につなげるように努力しています。担当医や提携している医師の意見を聞きながら、慎重に家庭に繋げるようにしています。

障害や疾患がある赤ちゃんは、医療的なケアが必要になることも多い為、病院間の連携をとれるよう調整しています。また、実親が手術などの同意を拒否する場合もあるので、「あなたが生んでくれた大事な赤ちゃんを温かな家庭が待っています」と説得もしています。

⑤ 林

里親や養親だけに子育てを任せない社会的な支援体制の在り方が非常に重要だと再認識させられました。市民が制度を知り、応援団になることが子どもや里親、養親のためになり、何よりも子ども自身の社会に対する安心感につながっていくと実感させられました。

4. 閉会挨拶

里親になろう、特別養子縁組を考えよう、応援しようという機運が盛り上がるきっかけになれば幸いです。政府として里親、養親をサポートする活動にも支援を拡充することが必要だと改めて感じました。

以上